

## 今日のシライ中

## 本の翼

白井中学校図書室から VOL.6

皆さん、学校が再開され、「新しい生活様式」にも慣れてきましたか？さて、今日紹介する本は、「見方を変えれば、新しい発見ができる」ことを私たちに示してくれる、そんな2冊です。今まで当たり前だと思っていたことが、あっという間に失われてしまう経験をした私たち。それでも、見方を変えれば新たな景色が見えてくるかもしれません。そんな本の紹介です。どちらも楽しいですよ！

## 『左利きあるある 右利きないない』 左 来人

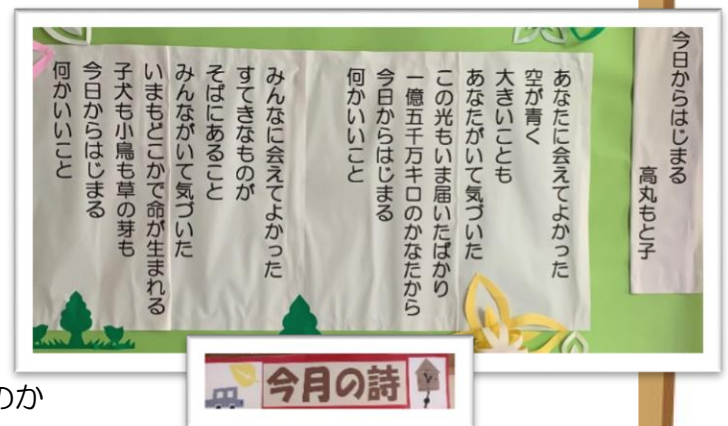
唐突ですが、皆さんの利き手はどちらですか？「右手の人、手挙げてください！」多分右手の人の方が、圧倒的に多いのではないかと思います。そこで、今回紹介するこの本。右利きの人たちが考えたこともない「左利き」の人たちの「不便」、が、これでもかと言っている1冊です。例えば、「可愛いイラストのマグカップを買っても、飲む時は反対側に。」「駅の自動改札が通りづらい。」「野球チームに入ると、とりあえずピッチャーをやらされる。」「コンビニのATMは、ボタンが右下にあるので実は使いにくい。」「ねじがうまく回せない。」「トランプを左手で扇形に持つと数字が見えない。」「フライ返しの先っぽの傾斜が、なくなればいいのと思う。」「水道の蛇口。開けようとするすると閉まる。閉めようとするすると開く。」

でも、皆さん、安心してください。この本は決してネガティブな本ではありません。ところどころに、「左利き」の偉大な先人たちの言葉も紹介されています。例えば、かつての大阪万博のシンボリック的存在「太陽の塔」を作った「岡本太郎」さんの言葉。『笑い出すほど不器用だったら、それはかえって楽しいじゃないか。』右利き用の工作道具で悲しい思いをしている「左利き」の誰かが勇気づけられる一言です。見方を変えれば、不便なことも楽しめる！そんなたくましさ、明るいユーモアが全編にあふれています。

## 『ブッタとシッタカブッタ』 小泉 吉宏

堂々と4コマ漫画です。堂々とブタが主人公です。主人公「シッタカブッタ」は、くよくよ、いじいじ、よく悩みます。「こんなに、こんなに愛しているのに・・・」シッタカブッタがぼやきます。「恋ってどうして苦しい時があるのかなあ。」「人から愛されないと、どうして苦しいのかなあ。」「人に認められないと、どうして苦しい時があるのかなあ。」「ボクたちはよく自分を見失うって言うけれど、自分はずっとここにいるのに、どうして見失うのかなあ。」「恋人がいけないといけなのかなあ。」「なんだかボクには、わからないことがいっぱいあるなあ。」ブッタ様、ブッタ様。どうすればいいのでしょうか。

ブッタの答えは、『とりあえず、この本を読んでみなさい。』です。もちろん、読んでいて楽しい本です。でも、実は『哲学的な本』でもあります。（高校の「道徳」の時間でもよく取り上げられる本です。）どの年代で読んでも、そして、置かれた状況によって見えてくる景色が違う、そんな一冊です。



図書室前ろうかの掲示